

(研究テーマ)

**自然との共生の大切さに気づき、
自分の生活のあり方を見直すことのできる子どもの育成を目指して
～第4学年「エネルギーの問題を考える」の授業実践を通して(2年次)～**

1. 設定理由
「地球温暖化」を始めとする地球的規模での環境破壊・汚染が着実に進行し、世界各地で異常気象(干ばつや豪雨等)による甚大な被害状況が報告されるようになった今日では、「自然との共生」「清浄で豊かな自然環境」なくして、「人類の未来はあり得ないことが明らかとなってきた。今、人類は存亡の危機に直面していると言っても過言ではない。我が国においても、例外ではなく、近年特に異常気象が顕著となってきた。過去に経験したことのない異常気象は、新しい形の深刻な自然災害をもたらしており、私たちは今後自然とどのように向き合い、関わり合っていくか問われ続けている。
この重大な危機を乗り越え、自然と共に生きていくためには、一部の企業・行政の責任を問うことで、問題が解決するわけではない。私たち自身の生活のあり方、その意識とライフスタイルそのものを環境との関わりにおいて見直し、変革していくことが必要不可欠であり急務であると考えます。
今回の実践研究で取り上げた「エネルギー」問題も、まさにその環境との関わり方を問う重大なテーマの一つである。これまでのように生活の便利さを追い求め、大量にエネルギーを必要とする社会から、人間的な心の豊かさを享受するライフスタイルへ、暮らし方を転換していかなければならない時期がきたと考えます。
暮らしに欠かすことのできないエネルギーである『電力』を取り上げ、その供給と消費のあり方について授業を通して研究することは、環境問題を考える上で重要なことである。未来の社会・地球に生きていく子ども達にとって、『電力』は必要不可欠であり学習内容として、極めて意義深いものであると考え本主題を設定した。

2. 研究仮説
(1) 身近なエネルギーである電力を取り上げて、様々な発電方法が環境に及ぼす影響や課題と、私たちの暮らしにおける電力消費の実態とを関連づけて調べる活動を設定すれば、環境の視点から見た電力に対する認識が深まり、自分の生活のあり方を見直すことができるだろう。
(2) 問題解決的な学習過程において、体験的な活動や資料提示を工夫することで、児童の問題意識や解決能力を高めれば、環境問題に対する認識を深め、自分の生活のあり方を見直すことができるだろう。

3. 研究内容
(1) 電力の供給と消費の実態に関する各種データを収集し、電力から見た私たちの暮らしと環境とのあり方という視点から分析・検討を加え、その本質的な問題点を明確にして、学年(小4)に応じた学習内容の教材化を図る。
(2) 電力と私たちの暮らし、環境とのあり方を探るため、問題解決的な学習過程を構築して実践し、児童の主体的な学習意欲や態度、電力と環境の関係に対する考え方や意識・態度等の変容を把握して、学習の効果を測定する。

4. 結論
(1) 電力というエネルギーを、私たちの暮らしと環境との関わりから問題に気づき、具体的に追求する学習をすることにより、環境の視点から見た電力に対する児童の認識が深まり、自分の生活のあり方を見直すことができた。
(2) 問題解決的な学習過程において、体験的な活動を取り入れたり、問題意識に合わせた資料提示の工夫をしたりしたことにより、環境問題に対する認識を深め、自分の生活のあり方を見直すことができた。